



外装拾い出し基礎知識マニュアル

目 次

初めに	3
拾い出しとは？	3
拾い出しに必要な主な図面	3
仕様書から外壁材・屋根材の判定	4
数値単位について	4
長さ	5
面積	5
外壁の拾い出し	6
外壁の施工方法	6
サイディングと目地について	6
平面図から隠れた外壁の確認	7
外壁の役物について	7
屋根の拾い出し	11
屋根勾配について	11
屋根の種類について	12
屋根の役物について	13

初めに

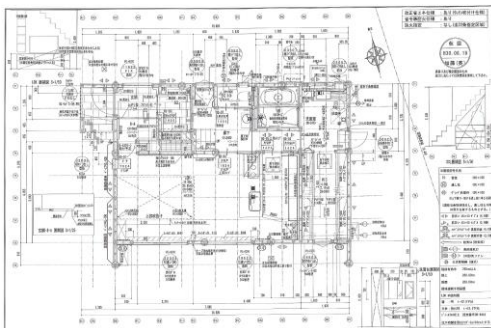
このマニュアルでは外装の拾い出しにおける基礎知識を記載しています。

拾い出しとは？

工事を行う上で欠かすことが出来ない業務で、物件の大きさを図ることを拾い出しと呼んでいます。
この拾い出しを行うことで初めて見積書作成、材料発注、工事の段取りが出来ます。
外壁は立面図から、屋根は立面図、もしくは屋根伏図から拾い出しを行います。

拾い出しに必要な主な図面

<平面図>



建物を真上から見た図面です。
各階ごとに床面から一定の高さの水平断面を表しています。

＜立面図＞



建物の各方面の外観が表現された図面です。

<仕様書>

[illegible]

外壁にはどのような素材を使うかなど、工事内容が記載された一覧表です。

[illegible]

仕様書から外壁材・屋根材の判定

仕様書から外壁材と屋根材を確認してください。外壁の場合は複数の材料を使って張り分ける場合がありますので、貼り分け指示についても確認してください。

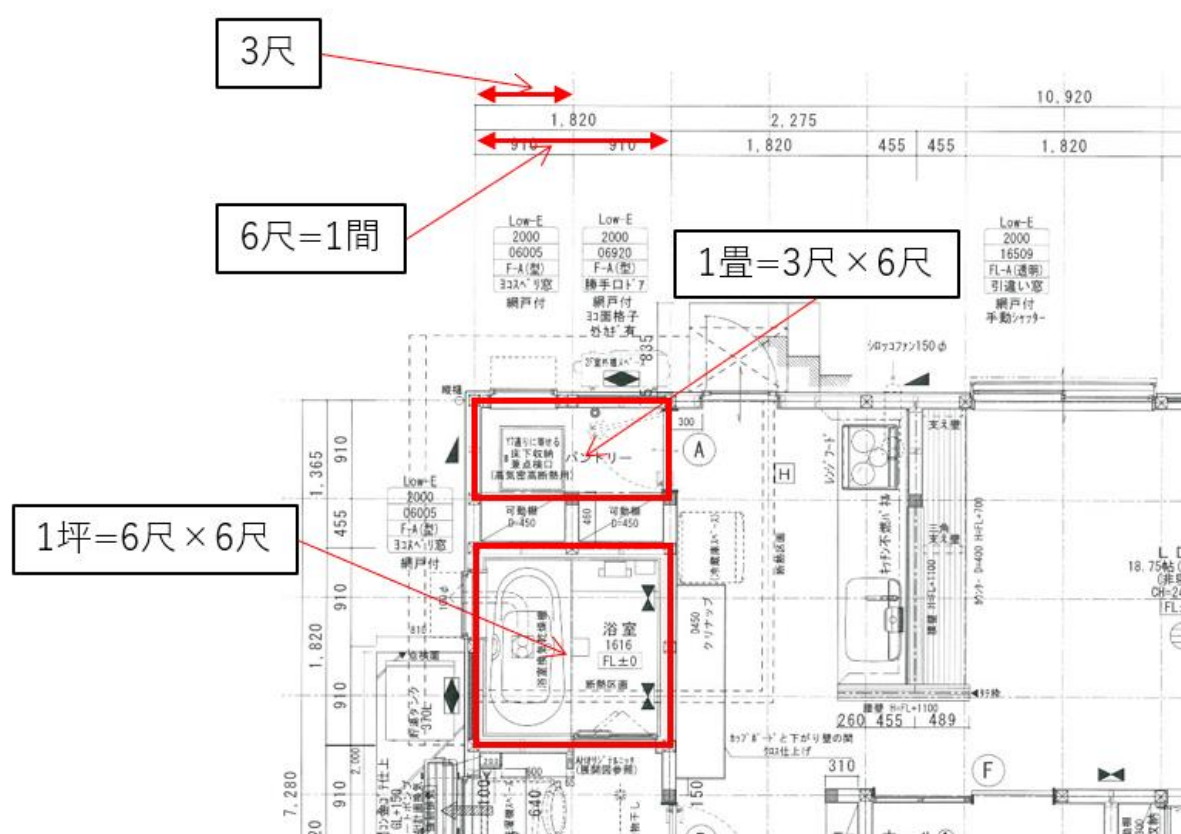
外壁	A	防火サイディング 厚16mm (塗装品) 横張り金具留めタイプ・短尺同質柄役物	KMEW ネロック・光セラ16
	B	防火サイディング 厚16mm (塗装品) 横張り金具留めタイプ・短尺同質柄役物	KMEW ネロック・光セラ16
		超高耐久・超耐候シリング材	オート化学工業

外壁材には窯業サイディング、金属サイディング、ALC など屋根材にはカラーベスト、瓦、板金などがあります。

上記図は外壁材の仕様書ですが、16mm 厚の横張り窯業サイディングを 2 色張り分けるとの指示になります。

数値単位について

日本の建物は尺貫法と呼ばれる日本独自の単位で作られています。各図面は現在の標準単位であるメートル法にて記載されていますが、材料名称や仕様書には尺貫法で記載されていることがあります。



長さ

長さ 1 尺→303mm で材料名などにも表示があります。例えば板で 3×6 サイズとあれば 910mm×1820mm の数値となります。材料名でよく使われるサイズは以下の通り。

- ・1.5 尺→455mm
- ・3 尺→910mm
- ・6 尺→1820mm
- ・10 尺→3030mm
- ・1 間→6 尺→1820mm

面積

先の長さを掛けたもので、部屋の面積を表現する場合に以下の数値が使われます。

- ・1 畳(帖)→3 尺×6 尺→910mm×1820mm≒1.65 m²
- ・1 坪→6 尺×6 尺→1820mm×1820mm≒3.3 m²

外壁の拾い出し

外壁の施工方法

外壁の施工方法は大きく2つに分けられます。

乾式工法：一定サイズの板を金具や釘などで外壁に貼り付けていく方法 例)サイディング

湿式工法：塗り壁材を現場で水と混ぜて練り、刷毛やコテを使って塗っていく方法 例)モルタル

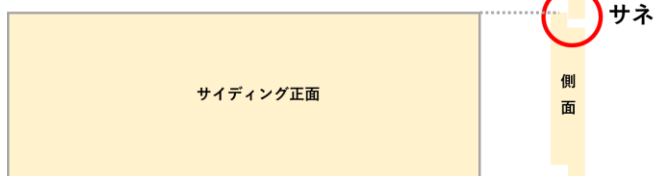
サイディングと目地について

サイディングとは、建物の外壁に使用する外壁材の一種です。

材質によって、窯業系・金属系などの種類があります。

サイディングは基本的に、板の上下にサネという凹凸があります。

板と板のサネどうしを重ねて、隙間を埋めます。

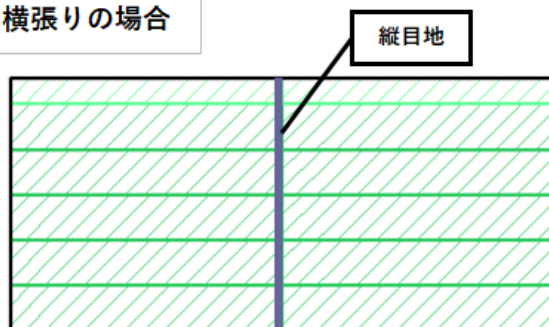


反対に、サネがない左右の隙間は、**目地**で隙間を埋めます。

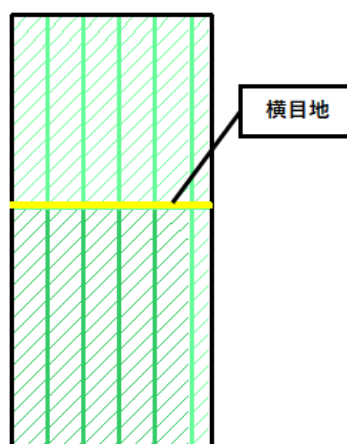
目地にはシーリングやジョイナーといった部材が含まれます。

そのため、板を横方向に貼る場合は縦目地、縦方向に貼る場合は横目地が必要となります。

横張りの場合

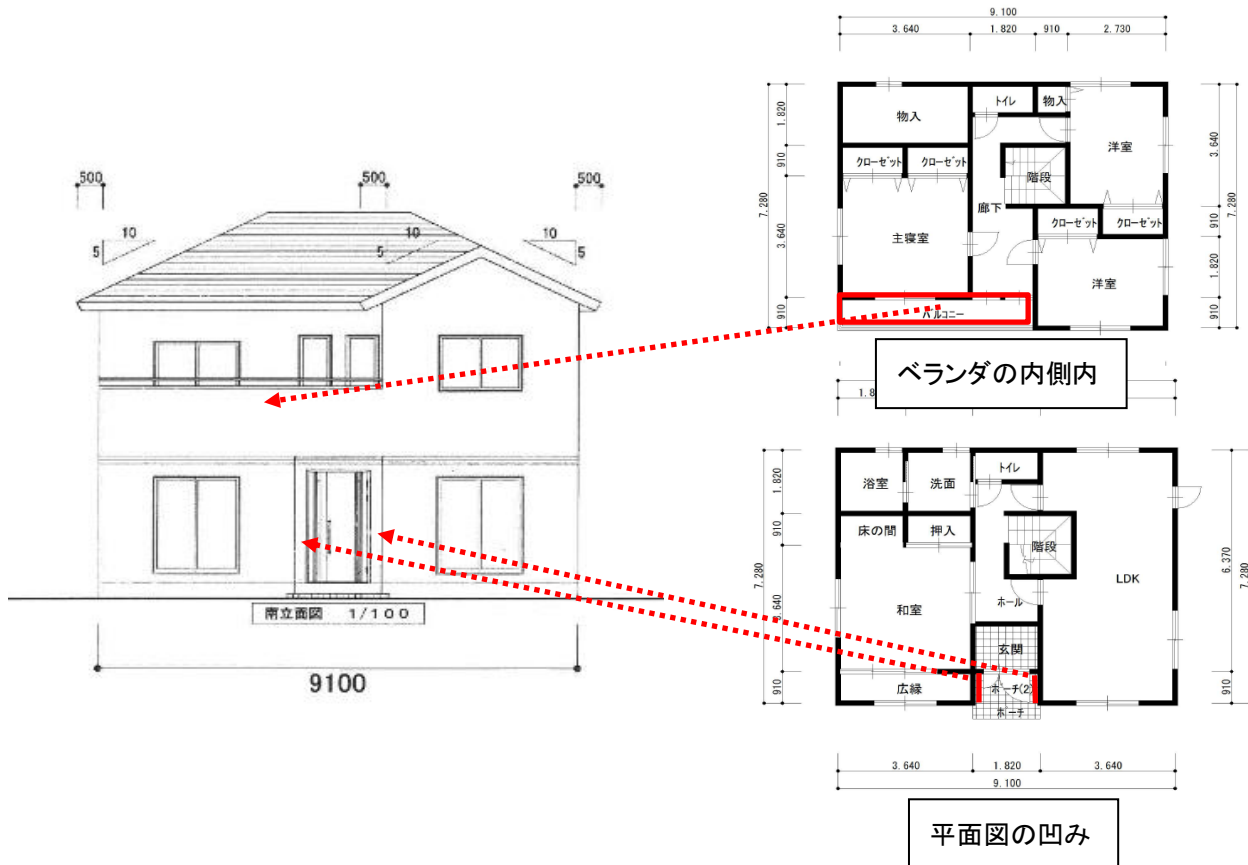


縦張りの場合



平面図から隠れた外壁の確認

外壁の拾い出しは主に立面図から行いますが、立面図上には表現されていない隠れた部分があります。奥まった玄関など、平面的に凹の形状の部分とバルコニーの内側です。その把握のために平面図を確認してください。



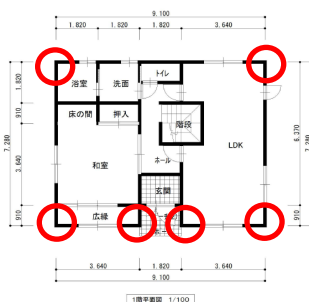
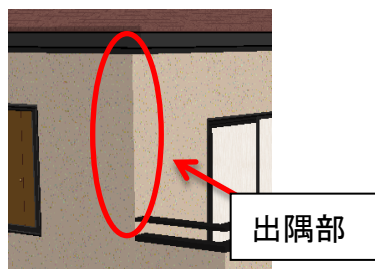
外壁の役物について

外壁工事には外壁本体だけでは無く、役物と言われる他材料も使って行われます。役物の名称と役割についてご説明します。

- 出隅
- 土台水切
- 入隅
- 軒天取合
- 縦目地
- 笠木
- オーバーハンク
- バルコニー土台水切



出隅



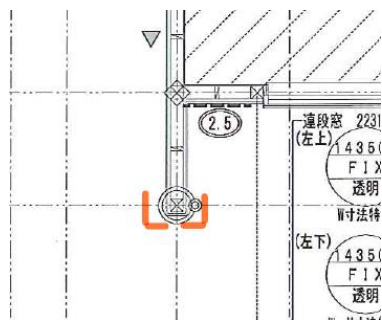
外壁の出っ張っている角にあたるもので、外壁本体と同じ素材で作られています。出隅がある場所は平面図で確認出来ます。出隅を拾う場合は次の点に注意してください。

■ 出隅を 2 重で拾わない

場所が確認出来たら立面図で長さを拾い出しますが、角にある特性上 2 重で拾ってしまうことがあります。次の図のように一見違う場所のように見えますが、平面図を確認すると同じ場所です。そのため出隅を拾う場合は基本的に、東西のみ or 南北のみというふうに対角の面のみで拾ってください。

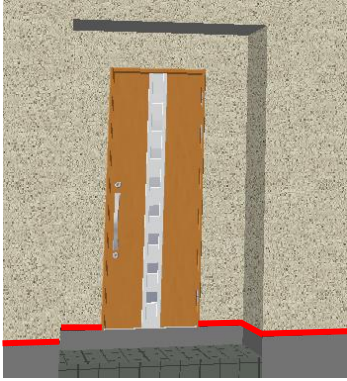


■ 袖壁・柱部分の出隅



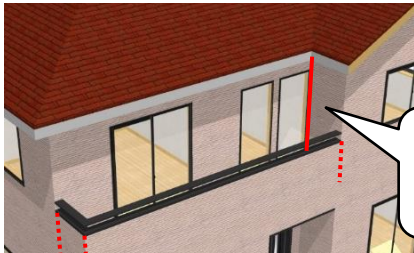
袖壁とはメインの場所から飛び出したような形状の壁で角が 2 つあることから出隅は 2 本拾って下さい。また柱形状の部分は角が 4 つあることから出隅は 4 本必要です。

土台水切り



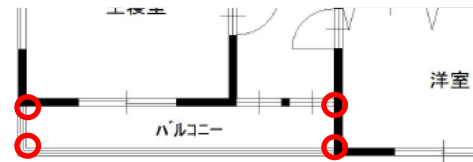
基礎と外壁の境目にあるもので、下からの雨風が入り込むことを防ぐ目的に付けられます。基本的に基礎と外壁の境目全てに入りますが、左図のように玄関ドアは外壁よりも下端が長いのでその部分は土台水切りはありません。

入隅



出隅と反対で入り込んだほうの角になります。出隅と同様に 2 重で拾う危険があるため対角の面で拾うようにしてください。

壁と壁がぶつかっている高さまで



軒天取合



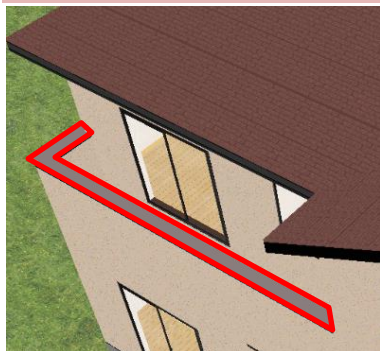
外壁と屋根など、垂直面から水平に切り替わる部分を指します。奥まった玄関やバルコニー下にもありますのでご注意ください。

縦目地・横目地



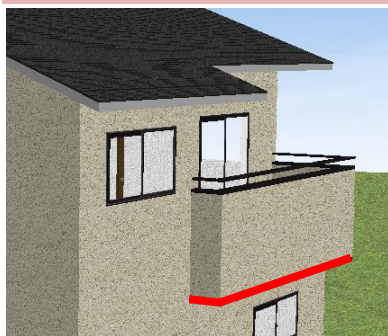
外壁材の接合部に関する役物です。外壁材が横張りの場合は縦方向に接合部があるため縦目地を、外壁材が縦張りの場合は接合部が横方向にあるため横目地を拾います。

笠木



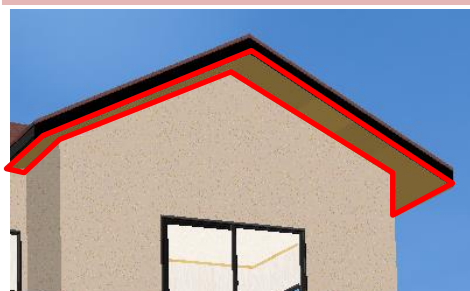
ベランダ手摺など、外壁上部に屋根などが無くむき出しになるところにつける役物です。ベランダ手摺以外に屋根よりも外壁のほうが高い場合にも使用します。

オーバーハング



外壁下部がむき出しになっているところにつける役物です。ベランダ下部や1Fよりも2Fの大きい物件などにあります。

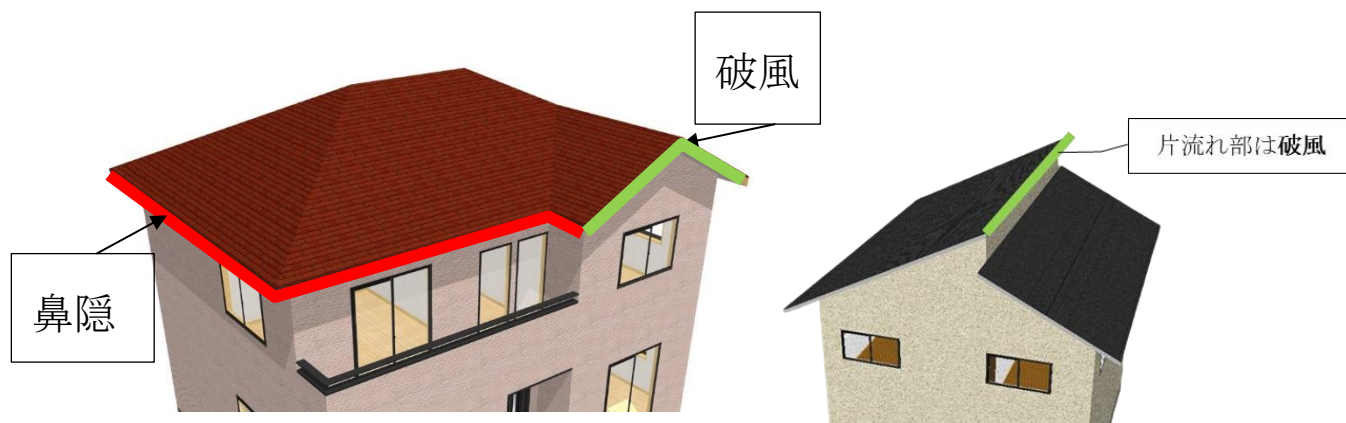
軒天面積



屋根が外壁より飛び出した部分の裏側につける面積です。屋根以外にもベランダや1Fよりも2Fのほうが大きい物件にもあります。

破風・鼻隠

屋根の周長につける役物で、破風は斜め部分に、鼻隠は水平部分につける役物です。片流れ屋根の場合、片流れ棟部分は破風になります。



屋根の拾い出し

屋根勾配について

屋根勾配とは、屋根の傾き(傾斜の度合いや角度)です。

屋根勾配は、「寸」と「角度」のいずれかで表示されますが、日本の建築物では「寸」で表示されるケースが多く見られます。

例えば水平距離 10 に対して高さが 5 の場合、5/10 というような表し方で「5 寸勾配」と言います。

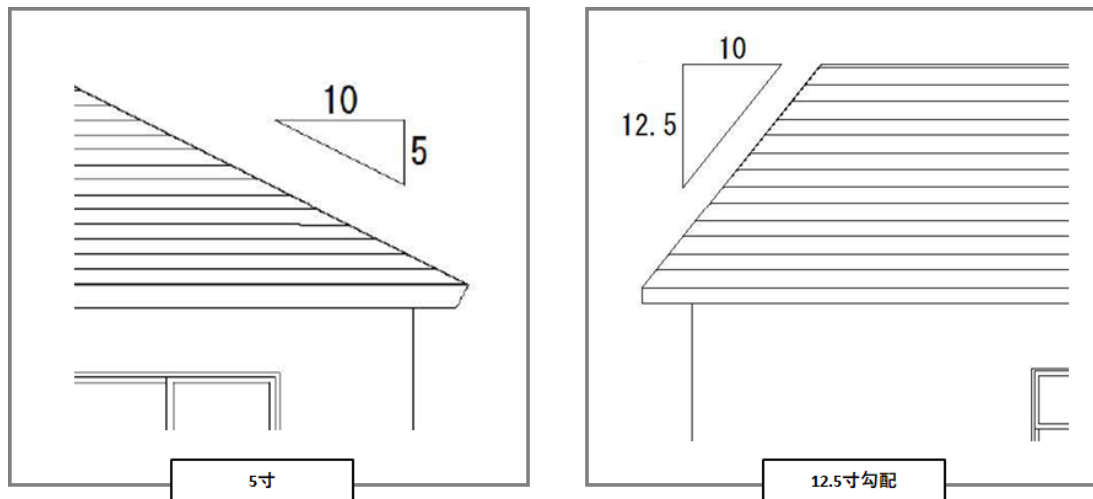
図面と屋根勾配表記の見方

《立面図の場合》

立面図には屋根の傾斜に併せて下記のような勾配表記が記されています。

横の数値が 10 の場合、縦の数値が屋根勾配の数値です。

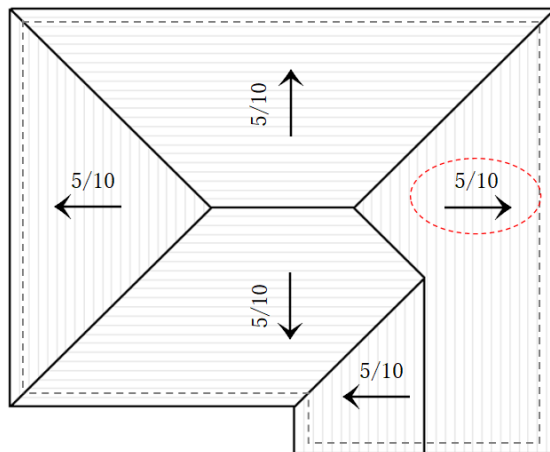
例として下記では左側は 5 寸、右側は 12.5 寸です。



《屋根伏図の場合》

屋根伏図がある場合は、屋根の流れる方向を向いた矢印と共に記載されていることがあります。

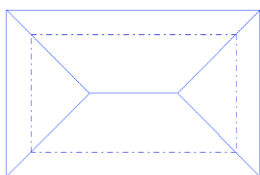
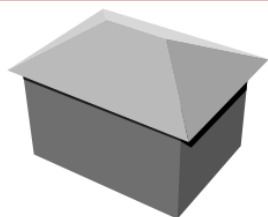
例として下記では全て 5 寸勾配の屋根という事が分かります。



屋根の種類について

屋根の代表的な形状の名称をご紹介します。

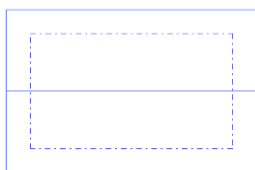
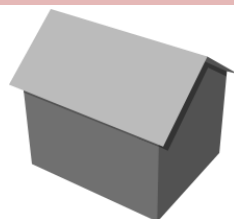
寄棟（よせむね）屋根



屋根の頂上で4枚の流れ面が合わさっているタイプの屋根。

複数の寄棟が組み合わさって複雑な形状の屋根が作られることもある。

切妻（きりづま）屋根



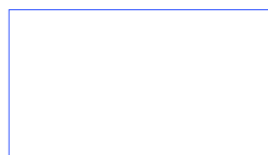
2枚の流れ面が頂上部で合わさった、三角形の屋根。

片流れ屋根



片方にだけ流れる一枚屋根。

陸屋根（ろくやね・りくやね）

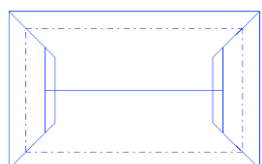
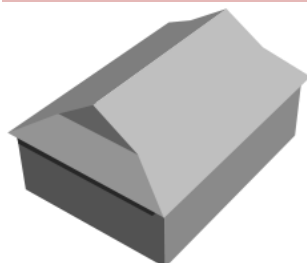


傾斜のない平面状の屋根。

外観はキューブ状になっている。

平屋根（ひらやね）ともいわれている。

入母屋（いりもや）屋根

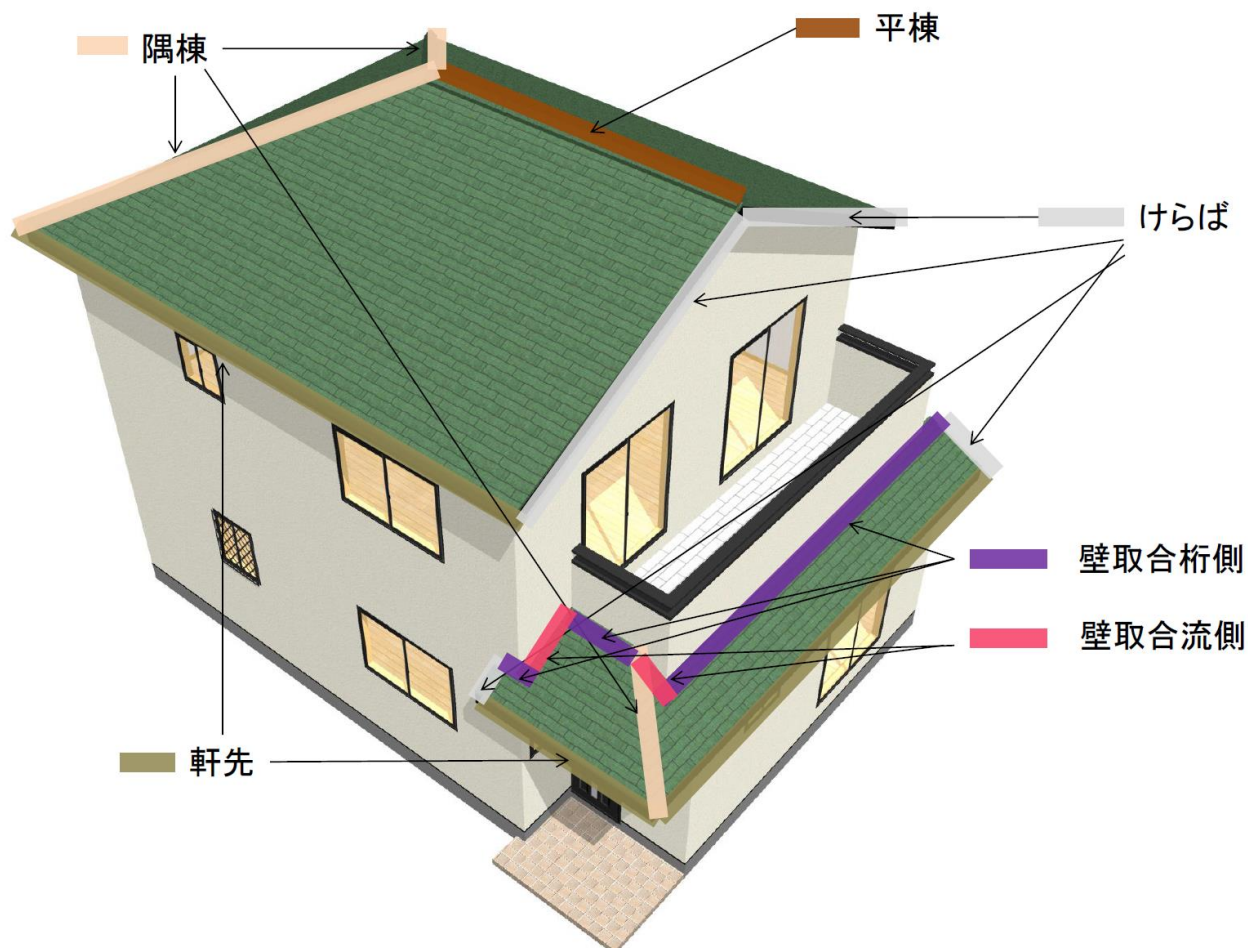


上部は切妻造・下部は寄棟造となる屋根。

古くからの日本建築においてよく見られる。

屋根の役物について

屋根材も外壁同様に本体以外に役物がありますが、同じ項目でも違う名前と呼ばれることがあります。屋根材は昔から使われている材料が多く存在しているため、昔からの言葉と現代の言葉が混在しています。



軒先

屋根の端で平行な部分を隠す役物が「軒先」です。取り扱う材料によっては「唐草」や「スターター」、「水下(みずしも)」と呼ぶ場合があります。

平棟・隅棟

屋根材が接合する部分で山折りになっているところを「棟」と言います。そのうち平行なものを「平棟」、斜めの部分を「隅棟」と呼び分けています。

けらば

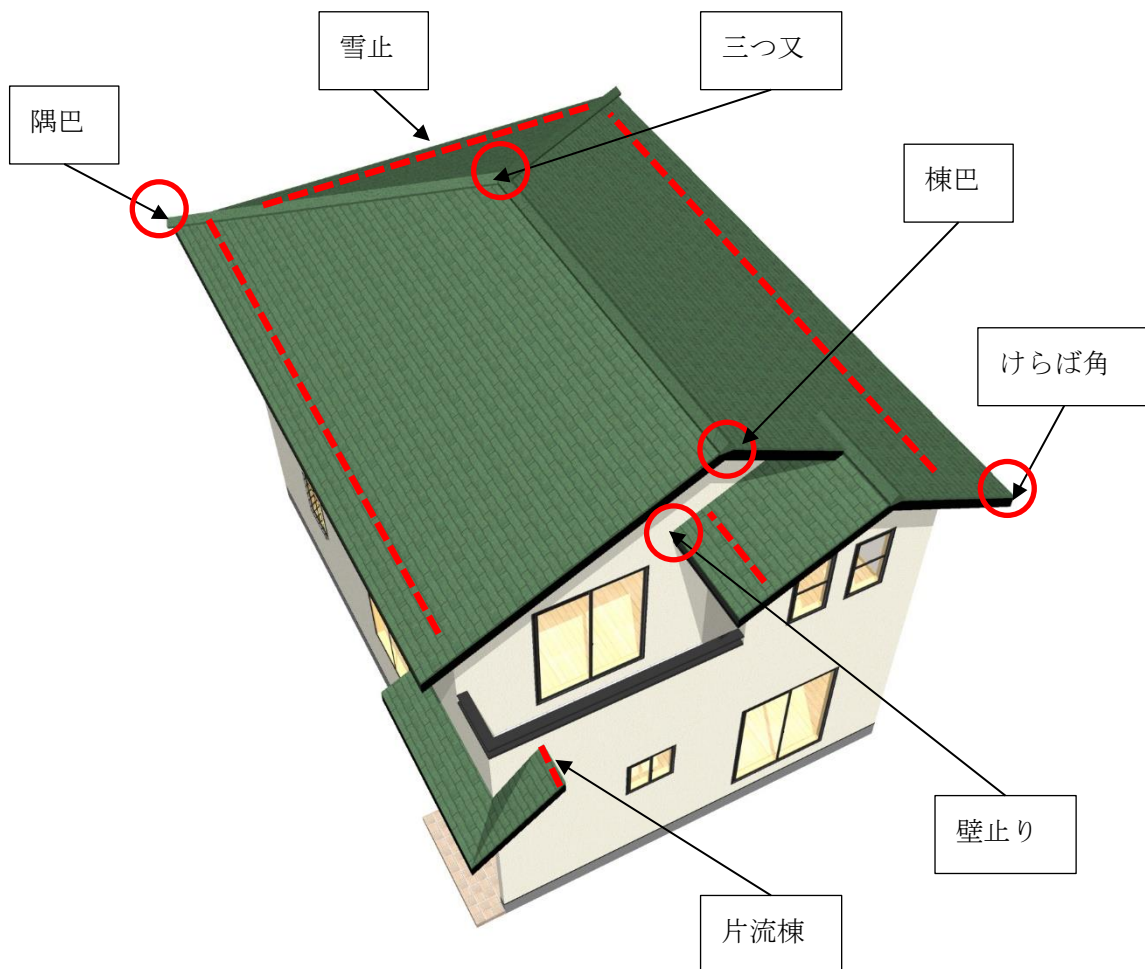
屋根の端で勾配が掛かった部分を隠す役物が「けらば」です。「破風」や「登り」と呼ばれる場合があります。また工法によっては左右(軒先から見て)で材料が異なる場合があります。

谷

屋根材が接合する部分で谷折りにになっているところを「谷」と呼びます。

壁取合流側・壁取合桁側

1F 屋根などで、屋根材と外壁材が接してところを指します。平行に接しているのが壁取合桁側、斜めに接しているのを壁取合流側と呼び分けています。両方とも「壁取合」ではなく「雨押え」と呼ぶ場合もあります。



雪止

軒先近くにある役物で、雪落下防止を目的に付けます。雪が降らない地域では付けないことが多く、逆に雪が多い地域の場合は2重でつける場合があります。

片流棟

片流れ屋根と呼ばれる1面で作られる屋根の場合にあります。頂点部分を隠すように取り付けます。「水上(みずかみ)」と呼ぶ場合があります。

けらば角

けらばの下端部分に取り付けます。

三つ又

平棟や隅棟が3本接合する場合に頂点に取り付けます。

棟巴

平棟の端部に取り付けます。

隅巴

隅棟の下端部分に取り付けるもので剣先とも呼ばれます。

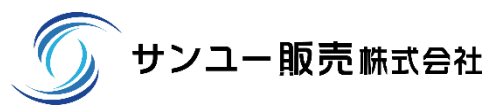
壁止り

軒先が外壁と接している場合に取り付けます。左右(軒先から見て)で材料が異なる場合があります。

腰折れ・マンサード

屋根勾配が途中で変わる境目に取り付けます。





作 成 者	サンユー販売株式会社
最終更新日	2023 年 7 月 7 日

<https://www.sanyu-hanbai.com/>

サポートセンターフリーダイヤル：0120-840-822

9:00~12:00・13:00~17:30(指定土曜・日曜・祝日を除く)

Copyright @ 2016 SanyuHanbai Corporation All Rights Reserved